

学校図書館支援センターだより No.11

名取市図書館 学校図書館支援センター ☎382-5437 FAX382-5706

名取市子ども読書活動推進事業「小澤俊夫氏講演会」を開催しました！

去る1月27日（水）、子ども読書活動推進事業として、世界的な昔話研究家・小澤俊夫先生の講演会を開催しました。市内はもちろん市外からもたくさんの方に集まっていただき、小澤先生のお話に、皆さん熱心に耳を傾けていました。

今回のテーマは「昔ばなしが語る子どもの成長」。昔話に込められているメッセージや、昔話を通しての子どもとの向き合い方などをお話していただきました。以下、講演の要旨です。



◇昔話はどこにある？

「昔話は語られている時間のあいだだけに存在する」・・・語り終わったら消える「うそ」のお話。

◇昔話の文法

昔話は— ①孤立的に語る ②1対1で構成される ③極端に語る ④中身を抜いて語る

したがって、決してリアルにはならない。残酷な場面があっても、残酷には語らない。

⑤同じ場面は同じ言葉で語る

子どもは「もう知っているものとまた出会いたがる」。←安心感や確認

子どもが望むかぎり、何度でも同じ絵本を見せてやってほしい。

⑥3回のくり返し（リズムが大事 タンタンタン←パフォーマンス）

物語にはリズムが必要。それを壊してはいけない。

ディズニーの「白雪姫」には3回のくり返しが無い。ディズニーは昔話を壊してしまった。残念。ぜひ、オリジナルの「白雪姫」を読んでほしい。

◇昔話にはメッセージがある

例) 三年寝太郎は、

「初めたっぷり寝たから後でいい知恵が出せた」「一生寝ていたわけではなく途中で起きた」。

◇昔話は民族の記憶装置

個人が忘れてしまった記憶を日本人全体の記憶として覚えてくれている。

◇昔話は、子どもが変化しながら成長する姿を語っている。



第2部では、フルートとピアノの演奏やグリムの昔話の素話（本を見ないで語る）を楽しみました。

図書館では、今後も子ども読書活動推進のための講演会を継続して開催していきます。

《小澤先生の主な著・訳書》
『昔話からのメッセージ ろばの子』
『こんにちは、昔話です』
『グリム童話集200歳—日本昔話との比較』
『昔話の語法』
『グリム童話の誕生』
『ヨーロッパの昔話 その形式と本質』
他多数

《小澤俊夫先生のプロフィール》

1930年生まれ。小澤昔ばなし研究所所長、筑波大学名誉教授。日本女子大学教授、筑波大学副学長、白百合女子大学教授を歴任。日本各地で昔ばなし大学を主宰。昔話の研究と語りの現場を結びつけることに努めている。2007年ヨーロッパ・メルヒェン賞受賞。2011年ドイツ・ヘッセン州文化交流功労賞受賞。

宮城県図書館「学サポセット」専用ページが開設されました！

宮城県図書館では、「学サポセット」（学校支援を行う図書館・公民館図書室をサポートするセット）の貸出事業を行っています。このたび、宮城県図書館のホームページ内に「学サポセット」の専用ページができました。「学サポセット」を利用する際には、ぜひホームページを活用してください。

◆運用開始日 平成28年1月26日（火）

◆HPアドレス <http://www.library.pref.miyagi.jp/>

「宮城県図書館トップページ」>「子どものページ」>「学サポセットのページ」

「学サポセット」専用ページではこんなことができます！

1. 「学サポセット」の手続きを確認できる
2. 「学サポセット」のタイトル名やセット内容を確認できる

新セット作成に向けて、廃止するセットがあります！

◆セット廃止日 平成28年1月26日（火）

- ・PHP絵事典（小学：中～）セット
- ・日本の食（小学：中～）セット
- ・自然科学（小学：中～）セット
- ・美術（小学：低～）セット
- ・スポーツ（小学：中～）セット
- ・PHP大研究（小学：中～）セット
- ・日本の民俗（小学：中～）セット
- ・日本の農林水産業（小学：中～）セット
- ・伝統芸能（小学：中～）セット



【お問合せ】宮城県図書館 〒981-3205 仙台市泉区紫山 1-1-1

子ども図書室 電話：022-377-8447 FAX：022-377-8491



図書館の本棚

名取市図書館にある本です。どうぞご利用ください。



『ちょっとの時間で魅力UP！！本棚のディスプレイ』

さわださちこ／著 全国学校図書館協議会

子どもの本のコーディネーターで、書店の児童書コーナーの棚づくりや飾りつけを行っている著者の第3弾。「書棚の最上段を何とかしたい」等々、様々なお悩み相談を受け、全国各地の学校図書館をビフォーアフターした実例を写真とともに紹介しています。予算をかけずに今すぐできるアイデア満載です。

『子どもと本』（岩波新書）

松岡享子／著 岩波書店

財団法人東京子ども図書館を設立、理事長として活躍する松岡享子さんの、子どもの本への愛情が満ち溢れた1冊です。本書の中から印象的な一文をご紹介します

『「子どもを本好きにするには、どうすればよいか」というお尋ねを受けることがよくあります。わたしの答えは、いつもきまっています。生活のなかに本があること、おとなが本を読んでやること、のふたつです。実際、子どもを本好きにするのに、これ以外の、そしてこれ以上の手だてがあるとは思えません。』

